

論 点 整 理

1 時代に即した新たな刑事司法制度の在り方（総論）

- 刑事司法が果たすべき役割
- 捜査と公判がそれぞれ担うべき役割
- 事実認定の在り方（供述証拠と客観的証拠の機能）

2 供述証拠の収集の在り方

- 取調べの録音・録画制度の在り方
- その他取調べ及び供述調書の在り方
- 取調べ以外の方法による供述証拠の収集の在り方

3 客観的証拠の収集の在り方

- 客観的証拠の収集を可能とするための諸方策

4 公判段階の手續の在り方

- 自白事件と否認事件との手續上の区別
- 公判準備及び公判審理の在り方
- 公判において真実の証言・供述を得られやすくするための諸方策

5 捜査・公判段階を通じての手續の在り方

- 被疑者・被告人の身柄拘束と国選弁護の在り方
- 犯罪被害者・証人等の支援・保護の在り方

6 刑事実体法の在り方

- 新たな刑事手續に相応する刑事実体法の在り方

7 その他